

## 西独自動車整備士 (KRAFT FAHRZEUG MECHANIKER) について

武藤 六三郎

表題に関して、昭和52年2月下旬から3月上旬にかけて現地に出張して調査したので、昭和52年5月東京九段の私学会館において開催された全国自動車工業短期大学協会の定期総会に発表した。ここにそれを集約して記述する。

マイスターに関する研究は、わが国と比較してみたとき、西独の方が遙かに多い。それだけ西独は従来生産活動においてマイスターの影響を受けて来たこと、即ちその力に頼ってきたことが夥しいものがあったといえよう。

日本では西独で行われているようなスタイルでの職業教育制度が確立されていないことと、マイスターに相当する職位や職業像が社会的機構に確立されていないところに大きな原因があったが、今やこれが見直されてきているともいえよう。

マイスターの地位、格付け、機能、知的レベル、経験の程度、マイスターの教育、再教育について、西独では以下の四つに区分されている。

1. 同業組合認定のギルド的マイスター (Innungsmeister)
2. 社内マイスター (Werkmeister) 企業の社内的都合で経験のある者を選ぶ。
3. 工業マイスター (Industriemeister) 技能よりも特定工業部門の基礎技術および管理、人事に明るい監督者で、商工会議所の検定試験に合格した者。
4. 手工業マイスター (Handwerksmeister) 技能の優秀な職長、手工業会議所の検定試験に合格した者、自動車整備に係わる者はこの種別による。

従前のマイスターは、工員の採用、昇進、解雇について、ほぼ全面的な決定権を持っていたが、時流の変化はあったが今日なお強力なものを持っている。

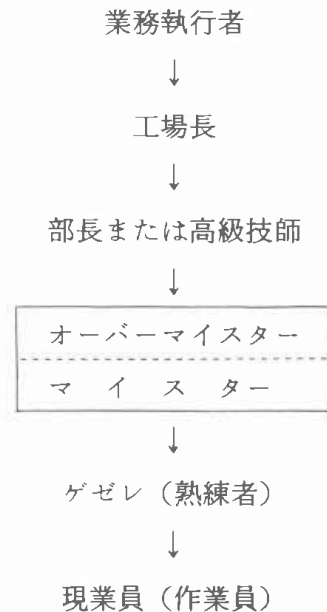
マイスターが独立した部分の工員群（技能者を含めて）の監督者であり、人事、労務あるいは勤労部門より配属された作業者を育成、管理し、共同作業を維持している。

1869年制定の北ドイツ同盟の工業条例のなかで、はじめて用いられた手工業マイスター（技能マイスター）の概念に基づいて、マイスターは当時ほぼ工場の中堅管理者とみなされていた。

1911年制定の職員保険法のなかでは、マイスターが工場における技術職員と同等に扱われるようになった。

大企業における管理職およびマイスターの位置づけを説明すると、つぎのような体系である。

## 工業系統の格付



1. オーバーマイスターの称号は、著しい功績があり、貢献度によって表彰された者。
2. 作業員は、事務所のなかの背広をつけた技術者のことばよりもマイスターのことばを一般には信頼する。
3. 技能中心に認定されるマイスターの試験制度は1953年12月17日制定の手工業条例に定められている。本制度による自動車整備に属するマイスターは約7千を数えている。
4. 1947年に、ドイツ商工業会議所が工業マイスターの国家的レベルでの試験制度を実施して今日では2万数千を超えている。

自動車整備マイスター教育コースは、ドイツ手工業会議所の試験規則によって各都市の手工業会議所において毎年1～2回行われる。

Mittel Schule	(10年)	中学校
Praktische Lehre	(3年)	19才で終る
Ingenieur Schule für Maschinenbau	(3年)	

受験資格は、満23才に達した者で、すでに実務経験を3年以上あることを前提とする。

15～16才 Lehrling 見習 (3年 Meister の下で)

↓  
試験 見習終了証書

↓  
Geselle (4～5年)

↓  
Meister Prüfung

見習期間中の第1年次は、基礎訓練を受けて、その後はゲゼレから実務を伝習する。

全期間を通じて週12～15時間職業学校で組織的な教育を受けることを義務づけている。ゲゼレになってからもさらに専門知識が要求される。経営組織法、労働法、社会法、労働心理学、品質管理、安全管理、人事管理、数値制御工作機械、コンピューター制御、構造学、自動車工学、熱、電気、工作学等を習得しなければならない。検定試験は、学科と実技に分れ、担当の教官とマイスターによって2週間に渉って行われる。

ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、電装、溶接（電気、ガス）钣金、塗装、空調等から旋盤ならびにその他の工作機械操作の技法。

ゲゼレからマイスターの資格取得率は受験者の3分の1の割合になっている。マイスターのタイトルを受験する者は、一定の資格要素を必要とし、取得した者は技能、識見共にすぐれ、企業内でも採用時有利である。ドイツには長い職業教育の伝統があって、世界不況をもはね返す経済の底力、それは独自の教育方式を持ちつづけて、国の経済を支えてきているからである。

マイスター制度は、中世紀の頃から始まって多種多様なものがある。さきに示したように上級の自動車整備技能者に与えられるタイトルの制度化されたものは、手工業条例に基づく西ドイツ手工業会議所によって実施せられる。

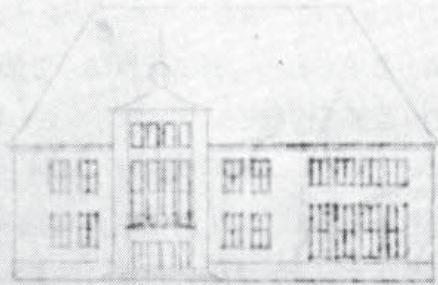
技能検定試験の合格者はすなわち **KRAFT FAHRZEUG MECHANIKER** の **MEISTER BRIEF** である。

#### 〔附記〕

マイスター証書は、横30 cm、縦42 cmの上質厚紙すかし入りの三色刷のもので、検定を施行した会議所本館建物の模写の下に、ひときわ大きく太文字でマイスター証書と書き、その次にハンズボード ハンネ（受領者）の名前と生年月日1947年9月3日、内容として上記の者はヒルデスハイムの手工業会議所において、条例所定の技能検定試験に合格して自動車整備士の資格を取得した者である。年令28才。免許下附の日附 1976年6月3日。検定官署名。（次頁写真参照）

なお、第2報として、西独各地の大学で自動車工学科をもつ **AACHEN・DARMSTADT**（以上単科大学）、**BERLIN・BRAUNSCHWEIG・HANNOVER・KARLSRUHE・MÜNCHEN**（以上総合大学）の7大学を紹介する予定であるが、それらは何れも産学協同体を成している。





# MEISTERBRIEF

HANS-BODO HANNE

GEB. 3.9.1947

HAT VOR DEM UNTERZEICHNETEN MEISTERPRÜFUNGS-  
AUSSCHUSS DER HANDWERKSKAMMER HILDESHEIM

DIE MEISTERPRÜFUNG IM

KRAFTFAHRZEUGMECHANIKER-

HANDWERK BESTANDEN UND IST DAMIT BERECHTIGT,

IN DIESEM HANDWERK DEN MEISTERTITEL ZU FÜH-

REN UND NACH VOLLENDUNG DES 24. LEBENSJAHRES

LEHRLINGE AUSZUBILDEN.

HILDESHEIM DEN 6.3.1976

HANDWERKSKAMMER HILDESHEIM

MEISTERPRÜFUNGS-AUSSCHUSS

DER VORSITZENDE

BEISITZER

*Krusung*

*[Signature]*

*[Signature]*

BEISITZER

*[Signature]*

